講師紹介

金澤　洋　先生 （気仙沼歯科医師会在宅歯科医療連携室長）

30年以上にわたり気仙沼市で地域を支える歯科診療所として奮闘。震災当時は歯科医師会会長として、オフロードバイクにて会員の安否確認に奔走した。同時に、全国からの医療支援スタッフ（鶴見大学も含め）と連携、またコーディネイトを行い、多職種連携の礎を作り上げた。現在も、気仙沼市における地域医療連携に尽力されている。趣味はバイクツーリング。　日本大学歯学部卒

「人は食をもって光となす」

古屋　聡　先生 （山梨市立牧丘病院院長）

地元山梨にて、整形外科プライマリ・ケア医として診療を行っている。東日本大震災においては、震災直後から気仙沼・南三陸へ支援に入った。巡回療養支援隊での活動、口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションに関わるサポートを展開し、現在では気仙沼市本吉病院の外来も担当し、気仙沼と山梨の往復生活を行っている。地元では、「山梨お口とコミュニケーションを考える会」を立ち上げ、口腔のケアから始まる多職種連携について、全国の有志と活動を展開している。自治医科大学医学部卒

寝る間を削って、被災地に行く時間を捻出するのは「当然のこと！」

川島　実　先生 （気仙沼市立本吉病院院長）

学生時代にプロボクサーとなり「現役医学生ボクサー」として注目を集める。プロボクサーとして活動中に医師国家試験に合格（通算戦歴は15戦9勝（5KO）5敗1分）引退後には地域医療に携わる。東日本大震災の発生後は医療ボランティアのため、常勤医不在の宮城県気仙沼市立本吉病院へ。片道4時間かけて毎週末通い詰めた。不在だった院長就任を依頼され、2011年10月院長就任。山形に奥さんと子供４人を残し単身赴任中。京都大学医学部卒。

「院長の仕事はしんどい。でも、鶴見大学さんも頑張っているから負けたくない！」